

学部創設40周年を記念して

経済学部長 中原章吉

1989年（平成元年）、駒澤大学経済学部は、創設40周年を迎えることとなった。創設107周年を迎える本学では、経済学部は仏教学部、文学部に次ぐ歴史をもつ。

40周年の経済学部の歴史の基盤は旧制駒澤大学文学部人文学科にある。1949年（昭和24年）、学制改革によって、この基盤の上に商経学部商経学科が発足した。それ以来、1952年（昭和27年）に、商経学部第二部を開設し、1965年（昭和40年）に経済学部と改めた。現在、経済学部は、経済学科、商学科、経済学科第二部を擁している。そして、その上に大学院の経済学研究科、商学研究科を設置している。

1960年代の大学拡張期に、駒澤大学も量的に拡大し、経済学部もその多くを担当した。その後、質的充実が叫ばれ、1971年以降は学生数を減らし、カリキュラム施設そして教員の充実がすすめられたのである。たとえば、教員の充実については、完全公募により全国から逸材を集めた結果、経済学部は今日充実した時期を迎えている。

教員の充実は、本誌の質的向上をもたらしている。本誌は、経済学部創設10周年を記念して、1959年（昭和34年）『研究論集』第1号として創刊された。そして経済学部創設20周年を記念して1969年（昭和44年）に記念論集が『経済学論集』と改題され、その第1巻第1・2合併号として発行された。経済学部創設30周年記念論集は、1979年（昭和54年）に出されている。こうして現在、経済学部創設40周年を記念して、卒業生を招いて講演会、国の内外から研究者を招きシンポジウムをもち、記念論集を発行するはこびになった。

こうして40年、経済学部は着々として発展したが、まだまだやらなければ

ならない問題が多い。とくに学生のきめ細かな指導，教育，それによって優秀な卒業生を生みだしていくことである。学生にとって魅力あるカリキュラムを編成し，学生にやる気を出させることこそ急務である。優秀な卒業生を輩出して大学の評価を向上させ，学生に自信を与えることである。

また40周年となり，駒澤大学経済学部の特徴が問われる段階に入っているといえよう。学問研究の場として，自由であり，進歩こそ重んじられるべきであるが，その個性も重視されるべきであろう。

大学にとって40周年はまだまだ駆けだしである。今日より明日，明日より明後日がより充実し，発展した大学でなくてはならない。

駒澤大学経済学部創設40周年を記念して，「記念論文集」を発行し，ここに学内外のご批判，ご鞭撻をいただきたいと願っている。

1989年（平成元年）11月25日

駒澤大学第2研究館にて